

＜祝福に生き、祝福を流す者＞

詩篇 1 篇



＜ノーベル賞＞

スウェーデンの発明家アルフレッド・ノーベルの遺言により 1901 年から始まった世界的な権威のある賞。どのようにして始まったのか・・・？

- ◆自分の人生をすべて自分でコントロールすることは誰にもできない。思いもよらないつまづきの石に、けつまずいてしまうことも起こる。しかし、その後どう対処するかは、自分で選ぶことができる。

幸いなことよ。

悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。

【1 節】

歩む → 立つ → 座に就く 徐々に深みにはまっていく行程。

- ◆「歩み」は、その人自身の生き方を形づくっていく。だから「してはいけない」という小さなささやきが聞こえたら、その声を振り払わずに立ち止まって聞き、思考回路を変える。
- ◆「道に立つ」は、習慣的にその道にある人。
習慣は繰り返し行われた結果、生じてくるもの。

不品行、汚れ、好色 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、醜悪、遊興、そういった類のもの。 ガラテヤ 5 : 20、21

気づかないうちに習慣化しているものはいくつもある

◆「座につく」は、はまり込んでしまっていること。

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

【3, 4 節】

律法の中で、たいせつな戒めはどれか？

『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。 マタイ 22 : 37～39

シェマー イスラエル…イスラエルよ、聞け

あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家に座しているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。これをするとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。 申命記 6 : 6～9

◆旧約時代、主を信じて従う者に、愛は行いと切り離すことができないものだった。「愛する」の動詞は「守る」、「与える」「供給する」という意味があった。

◆コミュニティー・共同体には、一番苦手な人が必ずいる所。
共同体を建て上げるには、互いを支え合う心、共通のビジョン、労苦が欠かせない。

◆付き合いの難しい人とどのように接したらよいのか…。イエスさまは「まず祈りなさい」と教えた。まず祈ることで、心を神ご自身に向けなさと勧められた。

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と言われている。しかし、私は言うておく。敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」 マタイ 5 : 43、44